

もっとアフリカを知り、経済、技術、文化の交流を促進します



月刊アフリカニュース

2014年 7月 1日

No. 15

目次

	ページ
アンゴラ月報	1
ガボン月報	2
セネガル月報	2
ボツワナ月報	3
マラウイ月報	4
モロッコ政治月報・経済日誌	5

アンゴラ月報 (2014年5月)

【内政】

- 7日、公務員給与8%の調整及び最低賃金の13%上昇が承認。
- 16～31日、全国で国勢調査実施。
- 22日、通信・情報技術省が推進する電子管理行政（通称：E-Gov）につき審議。

【外政】

- 4日、ケリー米 국무長官、アンゴラを公式訪問。
- ケリー長官は Eximbank（米輸出入銀行）による TAAG（アンゴラ航空）の新型ボーイング 777 の購入のための6億ドルのファイナンス、アンゴラ国内のエネルギープロジェクトへの3億ドル以上の融資を表明。
- 8日、李中国首相、アンゴラを公式訪問。ギニア湾の安全保障及び大湖諸国の和平樹立に向けて両国で協力することを確認。①両国の外交旅券の査証免除、②経済技術協力協定、③中国輸出入銀行による Chimbe-Dala 水力発電ダム事業への融資に関する協定等を締結。
- 北朝鮮の李商務副代表の来訪。

【経済】

- 主要経済指標の発表。
- 世銀、10億ドルの財政資金融資を検討。
- アフリカ開発銀行、電力部門に10億ドル融資。

- 原油輸出量、過去3年間で最低。
 - 米 Cobalt 社、クワンザ盆地で油井発見。
 - アンゴラ LNG、1年間生産停止。
 - 農地面積は全可耕地面積の7分の1のみ、投資とインフラが不可欠。
- http://www.angola.emb-japan.go.jp/document/report/201405angola_report.pdf

ガボン月報 (2014年5月)

【内政】

- 公務員ストライキ（外務省、保健省、環境省、税関、大学等）。
- 飲料水アクセス問題に関する大統領会議。
- 第1回与党連合大会の開催。
- サブサハラ・アフリカ初のベルリッツ（ベネッセ子会社の英会話学校）がリーブルビルに開校。

【外政】

- ンバ・モクイ赤道ギニア外務大臣（大統領特使）のアリ・ボンゴ大統領表敬。
- マブング中部アフリカ経済通貨共同体（CEMAC）議会議長のアリ・ボンゴ大統領表。
- ル・ドリアン仏防衛相のガボン訪問（アリ・ボンゴ大統領と会談）。
- エリス・ニュージーランド首相特使のアリ・ボンゴ大統領表敬。

【経済】

- 新石油法の公布（4月25日付官報公示）。
 - 中国によるガボン森林保護資金援助。（約60万ユーロ相当）。
 - ガボン石油下請フォーラムの開催。
 - ガボン-コンゴ（共）光ファイバー敷設計画の開始。
 - 第7回 ODA 戦略的方針・協同合同委員会開催。
 - トタル・ガボン社の収益下落。
 - 第3回NYフォーラム・アフリカの開催。
- http://www.ga.emb-japan.go.jp/pdf/gabon_geppo/gabon_geppo_052014.pdf

セネガル月報 (2014年5月)

【内政】

- 8日、ジガンシオール州ピニョナ県シンジャン郡で MFDC とされる武装集団とセネガル軍の間で30分にわたる銃撃戦が発生し、兵士1名が負傷、武装集団のメンバー1名が死亡した。
- 21日から22日にかけて、シェーク・アンタ・ジョップ大学で学生が奨学金の不払い

への抗議及び「Master pour tous（全ての人に修士課程へのアクセスを）」を求めるデモを起こし、治安部隊と衝突した。

●22日、野党 PDS 運営委員会において、ウッド前大統領は「悪魔と手を組んでも APR を打倒しなければならない」と発言し、地方選挙においてほぼ完全な勝利を収める意思を述べるとともに、国内の全県を訪問する予定を明らかにした。また汚職の疑いで拘留されているカリム・ウッド元大臣らの問題に関しては、「地方選挙後に指示を発表する」と述べた。

●カリム・ウッド元大臣の裁判は7月31日に開始される予定。

【外政】

●11日、ル・ドリアン仏国防相がセネガルを訪問し、ティン国防相とダカールにおける仏軍共同作戦拠点の設置に関して協議を行った。

●15日、サル大統領は政府関係者及び宗教関係者とともにサウジアラビアを訪問し、同日から19日にかけてジッダ、メッカ及びメディナで巡礼を行った。

【経済】

●国家人口統計局の発表によると、2014年第1四半期の消費者物価は2013年四半期と比較して2.6%下落した。

●経済・財政大臣は27日の特別閣議において、2014年第1四半期の経済成長率が2013年の同時期年の2.1%から3.2%に上昇した旨明らかにした。

●24日、サル大統領、トゥーレ首相らはジャムニャジョ都市圏建設工事の着工式に出席した。

●世銀はバンダ計画（モーリタニア沿岸のガス田を利用し、同国及びセネル、マリ向けに300メガワットの発電を行うもの。140万家庭、700万人への裨益効果が期待される）実施のために2億6,100万ドルを拠出することに合意した。

●2013年のDoing Businessにおけるセネガルの順位が189ヶ国中178位であったことに関し、トゥーレ首相は順位向上のための21項目からなるアクションプランが現在95%達成済みである旨明らかにした。

<http://www.sn.emb-japan.go.jp/pdf/jp/sn/geppou1405.pdf>

ボツワナ月報（2014年5月）

【内政】

- 1 政府、公務員福利厚生制度の充実化を図る。
- 2 IEC、有権者登録官を複数名解雇。
- 3 IEC、80万人の有権者登録を記録。

【外交】

- 1 ボツワナ、SADC 選挙監視団への参加復帰。
- 2 コモンウェルス法務大臣会合の開催。

- 3 レソト王によるボツワナ訪問。
- 4 ボツワナ、マラウイに選挙監視団派遣。

【経済】

- 1 経済統計。
 - 2 ダイヤモンドセクター。
 - 3 石炭セクター。
 - 4 ニッケル・銅の生産安定。
 - 5 ボセト鉱山の経営危機。
 - 6 ガラネ・ゴールド社の生産開始。
 - 7 ザンベジ農商業開発プロジェクトの進捗。
 - 8 ウォルビスベイのドライ・ポート建設の進捗。
 - 9 ガソリン税、値上げの可能性。
 - 10 WUC 代表の解雇。
 - 11 カズングラ橋に関するジンバブエの主張。
 - 12 世界経済フォーラムの開催。
 - 13 IMF、家計負債増加に懸念。
 - 14 信用格付け据え置き。
 - 15 ボツワナ・中国関係
- <http://www.botswana.emb-japan.go.jp/downloads/report/2014.05.pdf>

マラウイ月報 (2014年5月)

【内政】

- 5月上旬から中旬にかけて複数の国際選挙監視団がマラウイ到着。
- 17日、マラウイ選挙委員会、有権者登録数を確定、7,470,806人。
- 20日、マラウイ総選挙（大統領・国会議員・地方議員同時三選挙）の投票が行われる。
- 24～25日、国連等の国際組織が選挙に関する暫定声明を発表。
- 31日、ムタリカ新大統領、チリマ新副大統領が正式に就任。

【外政】

- 4～5日、第1回 TICADV 閣僚会合（於：カメルーン）にムコンディワ外務次官が参加。

【経済】

- 1日、アフリカ開発銀行が3,550万米ドルの支援を承認。
- 7日、マラウイ政府はザンビア鉄道社(ZRL)に対しマラウイ国内の鉄道路線における運行を許可し、同社が運行を開始。
- 21日、豪パラディン・エネジー社はウラン生産を一時停止。

- 今年のメイズ生産量は390万トンとなる見込み、必要量は280万トン。
 - チパタ・ナカラ鉄道運行開始。ザンビア、マラウイ、モザンボークを結ぶ。
- http://www.mw.emb-japan.go.jp/JapaneseSite/20140620_malawi.geppo.pdf

モロッコ政治月報・経済日誌（2014年5月）

【主な出来事】

- ◎ 第32回アラブ・マグレブ連合（AMU）外相会合の開催。

<内政・政局>

- 1 次回参議院選挙の日程。
- 2 各地の大学における学生間の衝突。
- 3 モロッコにおける報道の自由。
- 4 5月1日（メーデー）におけるデモ。
- 5 宗教指導者研修施設の着工。

<外交・国際関係>

- 6 第32回アラブ・マグレブ連合（AMU）外相会合の開催。
- 7 モハメッド6世国王の仏私的滞在。
- 8 モロッコ・中国間の観光交流。
- 9 ナヴィ・ピレイ国連人権高等弁務官のモロッコ訪問。
- 10 ナイジェリアとの宗教分野における協力。

<モロッコ要人の外国訪問>

<外国要人のモロッコ訪問>

<http://www.ma.emb-japan.go.jp/pdf/seijigeppo/Seijigeppo201405.pdf>

I. 国内経済

1. 指標等

- ①2014年第一四半期の失業率。10.2%、失業者の75%以上が都市在住。
- ②モロッコ世帯調査。貯蓄に充てる収入があると回答した世帯は5.8%のみ。
- ③Standard & Poor'sによるモロッコ格付け。長期国債BBB-、短期国債A-3。

2. 建設・公共事業・インフラ等

- ①モロッコ・テレコムによる Etisalat 子会社買収。
- ②2040年国家鉄道戦略。
- ③ラバト市開発計画。
- ④モロッコ国鉄（ONCF）によるアフリカ人研修。

3. 農業・漁業

4. 産業

①モロッコ王室系 SNI 社による株売却。

②2013年モロッコの製造業評価。

③モロッコの航空産業とエアバス。

④モロッコの原動機付き二輪車登録。

⑤産業投資基金の運営開始予定。

5. エネルギー・電気・水

①ガス田の可能性。

②太陽熱発電分野の研究支援。

③モロッコ電力・水道公社(ONEE)の「2014年～2017年プログラム契約」。

④モロッコ電力・水道公社(ONEE)の風力発電プロジェクト。

6. その他

①最低労働賃金の値上げ。

②偽造品のモロッコ経済へのインパクト。

③モロッコの学校教育。

④Marjane グループの新戦略。

II. 諸外国等との関係

1. 外国政府との関係

①中国との観光・文化分野の協力協定。

2. 経済協力

①スイスによるオーガニック農業支援。

②世界銀行の借款。

3. その他

①ラガルド IMF 専務理事のモロッコ公式訪問。

②「2014年フランス・モロッコ・パートナーシップ・フォーラム」の開催。

<http://www.ma.emb-japan.go.jp/pdf/keizainisshi/Keizainisshi201405.pdf>